

「設備士試験問題解答例集」平成 29 年度～令和 3 年度版 正誤表

頁・行	訂正箇所	誤	正
15 頁 下から 4 行目	平成 29 年 空調部門 I ・問 16 の解答記号	(16) (ホ)	(16) (ニ)
106 頁 下から 7 行目	平成 30 年 空調部門 I ・問 19 の解答例	(c) VAV システム (変風量) は、逆風量を制御し温度制御を行 うので、適正風量の確保は難し い。(⇨CAV 定風量)	<del>(c) VAV システム (変風量) は、逆風量を制御し温度制御を行 うので、適正風量の確保は難し い。(⇨CAV 定風量)</del> 予冷外気取入れ停止では、冷房ピ ーク負荷は削減できない。(冷房 のピークは日中のため)
244 頁 上から 13 行目	衛生部門 I ・問 1 (14) の問 題選択肢 (c)	(c) LP ガスのガス漏れ警報機 の取付け高さは、床面から上方 30cm 以上である。	(c) LP ガスのガス漏れ警報器 の取付け高さは、床面から上方 30cm 以内である。
305 頁 上から 13 行目	令和 2 年 空調部門 I ・問 3 の解答記号	(3) (ニ)	(3) (ハ)

<p>325 頁 下から 17 行目</p>	<p>令和 2 年 空調部門Ⅱ・問 4 の解答記号及 び解説</p>	<p>(4) (イ) (a) 物体内において熱が高温から低温へ移動する現象を熱伝導という。 (c) 熱が伝わる伝わり方(移動)は「伝導」「放射」「対流」の 3 種類。</p>	<p>(4) (ハ) <del>=(a) 物体内において熱が高温から低温へ移動する現象を熱伝導という。=</del> (b) 記述は、放射(輻射)。対流熱伝達とは、固体表面とその周りを流れる流体中との間で、流れによって熱エネルギーが伝えられる現象を対流という。 <del>=(c) 熱が伝わる伝わり方(移動)は「伝導」「放射」「対流」の 3 種類。=</del> (d) 建物の中でも熱を伝えやすい部分で、熱を橋渡ししてしまう存在となるため、熱橋と呼ばれる。</p>
<p>325 頁 下から 14 行目</p>	<p>令和 2 年 空調部門Ⅱ・問 5 の解答記号</p>	<p>(5) (ハ)</p>	<p>(5) (ニ)</p>
<p>327 頁 下から 3 行目 4 行目</p>	<p>令和 2 年 空調部門Ⅱ・問 20 の解答例</p>	<p>(c) E V 機械室に機械換気が必要。 (e) 建築物(換気設備を設ける・・・)</p>	<p><del>(a) E V 機械室に機械換気が必要。換気上有効な開口でも良い。</del> (開口建築基準法施工例第 129 条の 9 第三号。エレベータの機械室は、次に定める構造としなければならない。三 換気上有効は開口部又は換気扇を設けること。) (c) 建築物(換気設備を設ける・・・)</p>
<p>417 頁 上から 9 行目</p>	<p>令和 3 年 空調部門Ⅱ・問 2 の解答例</p>	<p>よって、通貨熱量は、<math>(22-1) \text{ }^{\circ}\text{C} \times 3.11 = 59.08[\text{W}/\text{m}^2]</math></p>	<p>よって、通貨熱量は、<math>(20-1) \text{ }^{\circ}\text{C} \times 3.11 = 59.08[\text{W}/\text{m}^2]</math></p>

令和 4 年 11 月 22 日時点